



印西市立西の原中学校

学校だより

発行 令和7年1月7日 No. 9

〒270-1334
印西市西の原一丁目3番地
TEL 0476-45-0160
FAX 0476-45-0161
特別支援相談窓口・コーディネーター
(教頭・米村・谷)
セクハラ相談窓口
(大井・仲子・鈴木美・森元・教頭)

【学校教育目標】

社会に対応し、心豊かにたくましく生きる若者の育成
～常識と良識をもった生徒～

1年の穴を深く掘るには幅がある

印西市立西の原中学校
校長 臼井 昌章

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

中学生時代に学ばなければならない大切なことの一つに、自分のこれからの生き方を考えるということがあります。自分が目指す進路や職業、あるいはそのヒントを見つけることがその中に含まれます。

さて今回は、土光敏夫氏という、日本経済団体連合会会長や第二次臨時行政調査会の会長を歴任した経済人の言葉を紹介します。土光氏は大企業の社長を務めていた頃も、朝は誰よりも早く出勤したり、社用車でなくバスや電車で通勤したり、足繁く小さな工場などを回って社員を元気づけたりして会社を再建したり、一層発展させたりした率先垂範、有言実行の昭和の経営者として有名な方です。

彼の残した言葉に「穴を深く掘るには幅がある」というものがあります。これはどんな意味なのか、みなさんはどう考えますか。

私はこんなふうに考えています。例えば将来、通訳という職業を目指すとしましょう。通訳は英語やフランス語、中国語やスペイン語などの外国語が話せる必要があります。しかし、それだけでよいのでしょうか。

実際に通訳として働くときには、日本国内を案内するだけでも、日本の文化や歴史のみならず、相手の国の文化や歴史もある程度つかんでいる方がよいはずで、地理についての知識も必要でしょう。相手国の通貨と日本円との換算もできなければなりません。

また、通訳は観光客を案内するだけの役割ではないはずで、経済・ビジネスや科学、歴史、あるいは医療や法律・契約関係、国際政治に関わる通訳も幅広く必要とされています。そうするとそれぞれの分野の専門知識も持たなければ、大切な内容を誤って相手に伝えてしまい、大問題につながりかねません。

一例として通訳について考えてみましたが、一つの道を究めていくためには、そこに隣接する分野を含めた幅広い学習が必要です。そうして学んだ知識や技能を、自分のものにしていかなければならないと思います。これが土光氏の言葉「穴を深く掘るには幅がある」という言葉の意味なのだと思います。

西中生のみなさんは、本校でさまざまな教科や領域の学習をしていますが、苦手だからといって勉強しないと幅は広がりません。この分野は必要がないと食わず嫌いになって、学ぶことから顔を背けたりしていませんか？人との交流についても同じことが言えます。

中学生時代は自分の幅を広げる絶好のチャンスです。ぜひ、このチャンスを生かして自分の世界を広げてください。みなさんがこの2025年を、大いに学び、交友関係を豊かにする年とするよう願っています。

【1月の主な行事】

7日	火	始業式 避難訓練
8日	水	3年実力テスト⑤ 専門委員会 弁当持ち
9日	木	給食開始 全国学力・学習調査 CTB サンプル問題 (理科2年) 学校生活アンケート (朝読)
10日	金	安全点検 消防設備点検
12日	日	バレーボール1年生大会会場
13日	月	成人の日
14日	火	食に関する指導訪問 (2年) 空気検査・学校薬剤師来校
15日	水	全校評議会 食に関する指導訪問 (2年)
16日	木	食に関する指導訪問 (2年)
17日	金	食に関する指導訪問 (2年)
19日	日	新入生対象ジャージ等採寸
21日	火	教育相談アンケート (朝読)
22日	水	学級優先日
23日	木	小中交流会
25日	土	三部会社会科作品展 そうふけ公民館 (~26日)
27日	月	職員会議 一斉下校
29日	水	学級優先日
30日	木	教育相談 (1・2年)
31日	金	教育相談 (1・2年)

